

代表取締役
奥山 恭之

エネルギービジョン

一目瞭然、雑草対策の効果

風力・太陽光

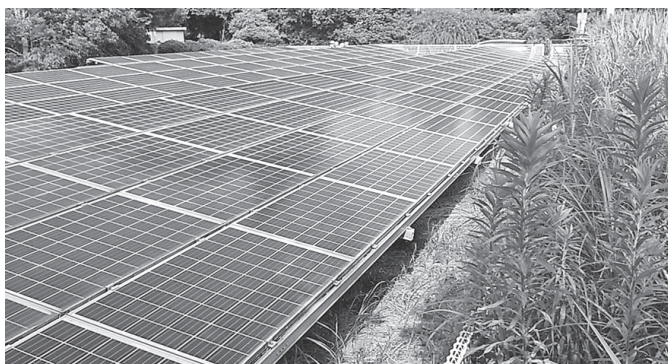
第44回

「放置」に該当する可能性も

遠隔監視だけでは
検知できない場合も



上：雑草対策をしていない発電所／下：隣接する対策済みの発電所



前回の連載記事(第43回・7月22日発行掲載)では、大太陽光発電所における雑草対策のセオリーと新たな流れを見た。今回は「雑草対策をする」

る雑草対策のセオリーと新たな流れを見た。今回は「雑草対策をする」
放題に絡んでいて、入り口の扉を開けることもできない。近年、経済産業省が問題視している「放置された発電

所」そのものだ。雑草はパネル上にも繁茂しており、発電量が大幅に下落していることは明らか。目分量だが5割以上は下落しているの見て間違いはない。
一方で、写真下はその隣で、雑草対策をしっかりと行なっている発電所。最初に伸びすぎた雑草を刈り倒した上で、除草剤を使って生えないようにコントロールしている。
上と下の写真を見比べれば、雑草対策を「するかアラート発報しないのう、ぼかしていることが多い。

「写真上が雑草対策をしていない発電所になる。地面が見えないほど雑草で埋もれていることが見て取れる。生えている雑草はセイタカアワダチソウやススキで、大人の背丈をゆうに超えるほど生育し、薦も設備に絡み接する発電所での、好対照な事例となった。
ちなみに発電所の日常管理を遠隔監視システムのアラートメールだけに任せていると、このような

雑草による発電量の下落は見逃すことがほとんどであることに注意が必要だ。アラートメールはパワコンなどの機器故障を警告することがメインで、発電量下落を詳細に指摘するものではない。
なぜなら、天候要因によって発電量が大きく変わる太陽光発電の場合、詳細に発電量下落を警告しすぎると数が多くて対処不能になるからだ。そのため発電量下落に関しては、わざと大雑把にかアラート発報しないのう、ぼかしていることが多い。

省が問題視している「放置された発電所」の事例を、このように要となる。

アラートメールが来ないから大丈夫、と考えるのではなく、月に1度ぐらいは遠隔監視のデータを解析することも重要となる。